教科
 工業(建築)
 科目
 工業技術基礎

 単位数:
 3
 単位

 墨田工科高等学校
 令和7年度

 教科:工業(建築)
 科目:工業技術基礎

 対象学年組:第 1 学年 5 組~
 4 組

教科担当者: 使用教科書: (実教出版:工業技術基礎

教科 工業(建築) の目標:

【知 識 及 び 技 能 】 基礎的な知識と技術を身につけ、工業の発展と環境・資源などとの調和のとれたありかたを理解させる。

【思考力、判断力、表現力等】 建築に関する諸問題の適切な解決を目指し、広い視野からみずから考える能力を身につける。

【学びに向かう力、人間性等】 建築に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む姿勢を構築する。

科目 工業技術基礎

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】		
		社会の発展をはかる創造的、実践的な態度を身に着けるとともに、あきらめない忍耐力を習得させる。		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	は、日本のでは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本の	オタエンテーション以外の機関 大工運用の取扱い力 ・部間機関する場合け ・開催機関する原 原 原 原 の 原 の の の の の の の の の の の の の	「地震を受け、外級ルへの財子を担して、加工等級や安全性に配慮し、設計・製作 に混合・資的に当業・製化する可能を企用すている。 「認合・解析・原理」場及の対抗と適して、大材の機能や方んかうえて、充剤がの選 とした地工方体を参考・判断し、第十十二、大材の機能や方んかうえで、充剤がの選 は上地の「デザースを対します。」という、大利の機能を対した。要はする。 「土地の「デザースを対します。」という、「大利の機能を対して対します。 「土地の「デザースを対します。」という、「大利の機能を対して対します。 「大利の「大利の」という。 「大利の「大利の」という。 「大利の。 「大利の、 「大利の、 「大利の。 「大利の、 「大利の。 「大利の。 「大利の、 「大利の、 「大利の、 「大利の。 「大利の、 「大利の。 「大利	0	0	0	15
1 学期	「企業を実行 ・ である。 ・ 本書の ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本	②測量実習 前半 - 五離測量 - 水準測量 後半 - セオドライト測量 - 墨出し	【知識、技能】特・意識において、合理的な開発を計算し、機器機件を観測を行 東えられたを持って、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	0	0	0	12
	□ 日本日本 日本日本 日本日本 日本日本 日本日本 日本日本 日本日本 日本	③ 遊形実習 前半 ・投影法 ・建具「組子」 後半 ・企宅模型 ・塗装	「国際、技術」の需求の設計を通して、完全や環境に配慮した住立期を実現させるためませない。 国際特殊する技能を発亡のけている。 (2.20年、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	0	0	12
	定期考査(なし)						
	「「「「「「」」」、「「「」」、「「」」、「「」」、「「」」、「「」」、「「		1回点、「設計」、外級以外の関係を通して、加工中級や安全性に配慮し、設計、製作 ・製造機の力に、外級以外の関係とは、対して機能を受けている。 1回名、「機能・規則」 ・対して、大きなの数性を通じ、大きなの数度を分んだうえて、各部材が図 ・は、大きなの数であり、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなの数である。 ・は、大きなのが、大きなの数である。 ・は、大きなのが、大きなの数である。 ・は、大きなのが、大きなのが、大きなのが、大きなのが、大きなのが、 ・は、たまなのが、、 ・は、たまなのが、 ・は、たまなのが、 ・は、たまなのが、 ・は、たまなのが、 ・は、たまなのが、 ・は、たまなのが、 ・は、たまなのが、 ・は、これが、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は	0	0	0	12
2 学期	国の本名を ・	温陶泉実習 ・ 主義開展 ・ 未常開展 ・ 本本部級 ・ 世 ・ 世 ・ 世 ・ 世 ・ 世 ・ 世 ・ 世 ・ 世	[1808年、技能] 及えられたデータを選供において、企業的な資金を封実し、機能操作と観測を行 及えられたデータを選供に認理し、その成象を関係に実す技能を作じついている。 [289 年間を、2007年 国際に関する基礎的な計解について、選切に送き、年間もし、まさざまな条件や環地に 主体的に学習によりました。とかことがことができる。 主体的に学習によりました。とかことができる。 現象に関する基礎的な技術について関心を持ち、意故的に測量機器を採用する創造 対、実践的な態度を含むつけている。	0	0	0	12
	定期考査(なし)						
	の表示を表します。 一般のである。 一般	国由市共營 中 ・ 2世紀 ・ 2世紀 成年 ・ 世紀 成年 ・ 世紀 ・ 世紀	知識、技能) 他でおよびやの開催の設計を通して、安全や環境に配慮した位立期を実現させるための非体を終このは、国際所体する技能を身化っつけている。 1800・1800・1800・1800・1800・1800・1800・1800	0	0	0	12
	定期考査(なし)						
		オリニンテーション以下を高音 術学 - 大工選手の変り扱い力 - 本部構造が必要付け - 200 機能が必要付け - 200 機能が必要 - 200 機能が - 200 体的が - 200	【知識・技能】 木造建築の土台、小屋組みの製作を通して、加工 手順や安全性に配慮し、設計・製作工程を合理的 に計画・実施できる技能を身に着けている。 【思考・判断・表現】 木造建築の土台、小屋組みの製作を通して、木材 の性質を学んだうえで、各部材の望ましい加工方 法を思考・判断し、効率よい組立工程を創意工夫 し、表現できる。	0	0	0	9
3 学期	「日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	②測量実習 前半 ・ 比離測量 ・ 水準測量 後半 ・ セオドライト測量 ・ 墨出し	し、水久の、と □。 「加油・技能」と開きた。 「加油・技能」と開きた。 「加油・技能」と開きた。 「加油・技能」とで、 「カルナデーケを割りに発見し、その成巻を提高に実す技能を身につけている。 「割・開本・関本りる基礎が支援制について、適切に思考・増加し、さざさなた条件や環志に 上生物は一定学生のよりません。 「加速に関する基礎がな機能について関心を持ち、意欲的に測量機器を活用する報道 別乗に関する基礎がな機能について関心を持ち、意欲的に測量機器を活用する報道 別、現践的な態度を身につけている。	0	0	0	9
	定期考査 (なし)						
	製造の企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企	③ 造形実習 前半 ・投影法 ・建具「組子」 後 半 生宅権型 ・塗装	知識、技能) を支払さなの開業の設計を通して、安全や構成に配慮した住立場を実現させるための非体を終このは、国際所体する技能を存むつけている。 12番・、機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能を発達した。 12番・・機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能・の機能・である。 それぞれの選条件に適比した当然回路を開業・したサイド・位職を必要できる。 1年が対じて夢にある地を観覚。20mのようを通じ、できる機能・両する基礎的は 対策に関心を持ち、置数的に学習に取り組み、合理的な性環境を工大する実践的な態 度を着につけている。	0	0	0	12
	定期考査(なし)						
							合計